

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 徳島県教育委員会
2. 研究主題 : 調査研究Ⅱ 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 導入が容易で効果的な手法による主体的・協働的な学びを通じた小規模校での高い教育力の確保
4. 研究課題 :
- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
 - ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する教育方法のモデル化（ホワイトボードミーティング等）
 - ・児童生徒の自己肯定感や学習意欲等を向上させることを目的としたファシリテーションを生かした学校づくり
 - (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動
 - ・地域の教育力の効率的な生かし方
 - ・地域の維持につながる地域活性化への学校の貢献
 - ウ 児童生徒数の増加や児童生徒集団の多様性確保
 - ・学区外から受け入れた不登校児童の心に届く教育活動の実践
5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校の活性化を目指し、信頼ベースの学級づくりを土台とした、ホワイトボード・ミーティング等学力向上への諸方策の実践や、地域の教育力を取り込んだ特色ある教育活動の展開を図る。
調査研究校の実践をもとに、小規模校での教育活動の高度な発展とモデル化を行い、その取組を県下に拡げる。

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

4月	・児童生徒の実態調査（全国学力・学習状況調査の児童質問紙と学校質問紙を活用）
5月	・3年間のビジョンの共有と本年度の研究計画の作成と学校教育推進会議に諮る実施計画案づくり ・校内研修会
6月	・校内研修会 ホワイトボードミーティングを活用した授業づくり
7月	○授業研修会 7月8日（金） 助言者 ちょんせいこ氏 ・第1回学校運営推進会議 7月8日（金）
8月	・職員研修（ホワイトボード・ミーティングセミナー参加）
9月	○授業研究会 9月13日（火） 助言者 ちょんせいこ氏，岩瀬直樹准教授
10月	・校内研修会 ・児童生徒の実態調査（全国学力・学習状況調査の児童質問紙と学校質問紙を活用）

11月	・研究成果中間発表会 11月10日(木) テーマ「探究型の言語活動の在り方について」
12月	○授業研修会 12月9日(金) 助言者 ちょんせいこ氏, 岩瀬直樹准教授 「学び合い授業実践について」
1月	・校内研修会 ・小中学校連携委員会設置
2月	・県教育委員会教育委員学事視察並びに地域懇談会 2月2日(木) 県教育委員教育委員, 県教育委員会事務局職員, 徳島市教育委員会事務局職員 PTA役員, 地域住民等 ○授業研修会 (小・中合同) 2月6日(月) 「学び合い授業実践について」 助言者 ちょんせいこ氏 ・第2回学校教育推進会議 2月6日(月) 今年度事業の振り返りと来年度計画案の協議 ・学校評価の実施(児童・生徒・保護者対象)
3月	・各試案の検証と来年度実践に向けての改善案作成 ・評価指標と評価方法の検証 ・協力校(小中一貫教育「徳島モデル」指定校)の選定 ・成果報告リーフレットの配付 ・今年度の事業報告書の作成

○外部アドバイザーを招聘した授業研究会

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>(1) 小規模校のメリットを最大化させる方策 ア 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究 【少人数による話し合い活動のモデル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問題解決する力やコミュニケーション力の向上を目指し、ホワイトボードを活用した話し合い活動を全教育活動に位置付けた。幼稚園においても、ホワイトボードを活用した保育活動を取り入れている。 ・ホワイトボードを活用した話し合いの手法は、児童生徒によく浸透している。教育活動の様々な場面において、ホワイトボードを活用して考えを深めたり、自分の考えを表現したりできるなど、コミュニケーション力の育成につながっている。
<p>【小中の連携により9年間を見通した、学力向上策の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携委員会を設置し、小中連携教育実施に向け準備を開始。次年度よりの実施に向け、9年間を見据えた子供像の共有や連携体制について協議。
<p>【コミュニケーションを密にした自尊感情の高揚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校のメリットを生かし、一人一人の児童が全体場で活躍できたり、大切にされていることを実感できたりする取組(ハートカードプロジェクト、友達カード等、異学年での活動等)により、自尊感情の高揚が図られた。 ※学校評価による児童質問紙「自分を好きだ」と答えた児童の割合 H27年2月 そう思う 47.4%, ややそう思う 36.8% 計84.2% H28年2月 そう思う 63.2%, ややそう思う 21.7% 計84.9% そう思うの回答が前年度比で15.8%向上
<p>(2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策 イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動 【郷土を知り、郷土に愛着や誇りをもつ児童の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の計画的な取込や地域行事への参加など、教育活動の多様化・充実を図ることにより、地域愛の育成につながった。

【児童数の維持・増】

- 入田小学校児童数 H26年度 37名 → H28年度 50名
- ・「一人一人を大切にし、丁寧に指導してくれて学力も付けてくれる。」と評判に。
 - ・他校からの児童の受け入れを積極的に行っている。
不登校気味であったが、個に応じた丁寧な指導により登校日数が増え、級友とのコミュニケーションも図れるようになった。来年度も2名他校から受け入れ予定である。

【学校閉校に対する地域の不安の低減】

- ・学校教育推進会議等において、教育委員会・学校・保護者・地域住民との対話を図ることにより、学校閉校に対する地域の不安の解消を図るとともに、協働して学校・地域の活性化を図っていかうとする意識の醸成につながった。

(2) 成果物等

【リーフレット】

文部科学省 少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業
平成28年度研究実践校の取組 徳島市入田小学校

(3) 今後の取組予定

- ・児童生徒間の交流や小中教職員の乗り入れ授業等、小中連携教育のよりいっそうの充実を図る。
- ・小中一貫教育（徳島モデル）指定校との連携を図り、学校間連携及び地域連携の充実を図る。
- ・ホワイトボード・ミーティングに加え学び合いによる授業作りについて研究し、学力向上に向けた授業の質の向上を図る。